

# 資料の特徴

---

## 1. 交通事故の現実に向き合う

この資料の特徴の1つは、高校生年代の交通事故の現実と向き合って、具体的、本質的な授業を進められることです。

生徒が新しく運転するようになる二輪車、四輪車は、楽しさ、便利さ、快適さ、自立性といった、大人として自由さをもたらします。同時に、事故を起こしたときには責任が発生し、人生計画を大きく狂わせます。

交通安全教育では、運転がもたらす自由と責任の両面から、生徒の関心や乗り物の特徴を捉えていくことが重要です。

## 2. 自分で考え、実行できるようにする

交通安全を、高校生が自分の頭で考え、実行できるようにすることを教育効果として期待しています。高校生が興味をもって受け入れられるようにテーマ、内容とも工夫しています。具体的には以下の4点を考えました。

1. 自動車工学、物理学、心理学、医学、法律など多面的なアプローチにする
2. 網羅的でなく、重点主義で取り上げる
3. 実感をもって考えられる（実技講習、実験、交通状況の観察、路上体験など）
4. さまざまな人たちの生の声に学ぶ（被害者の家族、救急病院医師、救命士、交通警察など）

## 3. 生徒が参加する授業

資料のもう1つの特徴は、生徒に積極的に授業に参加できる教育手法を取っていることです。

交通安全は、さまざまな知識や能力を必要とするチャレンジングなテーマです。問題の出し方が具体的であれば、生徒から予想以上の反応を引き出すことができます。

そのためにワークシートを核にして、先生と生徒がコミュニケーションをとりながら一緒に考えるという手法を採用しています。

生徒同士でディスカッションする、交通の危険場面を想定してロールプレイングをする、クイズに答え理由を発表するなど、たがいの意見の違いをオープンにしながら、交通安全について考えるという手法も取り入れています。

## 4. 交通安全教育をすぐに始められる

これらの教育を進める上で、学校現場には、交通安全を教育できる専門家は決して多いといえないのが実状です。

この資料は、交通について一般的な知識のある先生（たとえば、日常的に二輪車、四輪車を運転しているなど）なら誰でも、すぐに交通安全教育を始められるようにすることを目標に制作しました。